

# じゅしゅう

第19回

子ども会 夏のつどい

まだ梅雨の明けていない七月二十一日(日)。心配をよそに朝から良く晴れたお天気の中、子どもたちの声が本堂で響き渡っていました。今年で十九回目となる夏の子ども会です。

お寺での子ども会です。で、まずは仏さまにご挨拶。おつとめと「ほとけの子のちかい」の唱和、そして短いご法話を聞いていただきました。続いては紙芝居の読み聞かせ、その後にお待ちかねの流しそうめんです。雨が降るのではとの心配から、流す距離を短く準備していましたが、その心配もなくなりましたので、急遽例年通りの長さに戻して始まりまし

た。流しそうめん専用の塩ビの雨樋を使っていますが、全長はなんと20メートルを超える長さになるんです。そして、



流しそうめんですから、もちろん流しそうめんを流しますが、浄覚寺ではうどんも流します。ミニトマトや輪切りのキュウ

第4号  
(通算344号)

発行元  
浄土真宗本願寺派  
吉富山 浄覚寺  
大阪市平野区  
長吉長原3-1-10  
06-6790-8350

りも流します。うずらのゆで卵やデザートにブドウやカッパのゼリーまで流れてきますから、楽しみながらの昼食となりました。

お腹いっぱいになった後は少し休憩をして、次のプログラムは制作です。今回はラムネ作りを体験しました。抽選でしか買えない、あのラムネに近づけるように色を付けたり、クエン酸やレモンエッセンスなどで味付けをしました。形を作るのは大変でしたが、中々美味しくて好評でした。

残りの時間はチームに分かれてのゲーム大会で盛り上がり、あつという間に終わりの時間となりましたので、本堂を簡単にお掃除です。

そして、最後は閉会式。朝と同じようにおつとめをして、修了証とお土産をもらい、無事に事故なく終了することが

できました。

今回は冬の子ども会がありますが、来年の夏の子ども会は二十回目を迎えます。ちょうど十年前の第十回の時に、境内にタイムカプセルを埋めました。十年経ったら(来年の夏です)掘り起こそうと約束をしています。その時の参加者がどれだけ集まってくれるかは分かりませんが、楽しみに準備をしようと思っております。もちろん、二十回目としてもタイムカプセルを埋める予定です。ぜひとも、たくさんのご参加をお待ちしております。



ほとけの子のちかい

一・ほとけの子は

いつも

本堂のことを

いいます

一・ほとけの子は

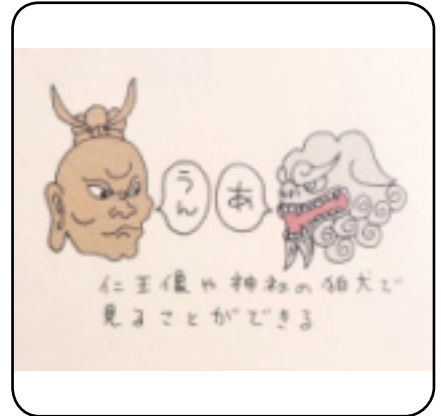
やさしい心を

忘れません

(抜粋)

# 御文章に聞く(第2回)

## 仏教語辞典



阿あ 吽うん

山門の仁王像を見ると一方が口を開いて「阿(始まり)」、一方が口を閉じ「吽(終わり)」となっていて、宇宙の始まりと終わりをあらわしている。

『気になる仏教語辞典』  
著・麻田弘潤 誠文堂新光社  
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていきたいと思います。

さっそく、一番有名な聖人一流章から始めます、と言いたいところではありますが、その前に、拝読の仕方を説明させていただきます。

まず、御文章を聞きにくくしている一つの原因が(失礼な言い方ですが)、言葉の読み方が変化する音便おんべんや連声れんじょうというものにあると思います。もちろん日本語の歴史の中で使われてきたものですから、御文章だけが特別というものでもなく、今でも自然と使っているものもあります。音便は数多くあるのですが、ここでは御文章に多用されている二つを紹介しましょう。

・促音便そくおんべん:イ段の音が「ッ」音(つまる音)に変化する音便

例(打ちて↓打って、散りて↓散って)

・撥音便はつおんべん:「ン」音に変化する音便

例(読みて↓読んで、終わらぬ↓終わんぬ)

などがあると思います。「打って」など変化している方が聞きやすいものもありますが、「終わんぬ」となってくると聞き慣れないかもしれませんね。

また、「信心をもって↓信心のもって」、「念仏を↓ねんぶつと」などに変化する連声びおんや、「つ」の音をわざと鼻だけで音を出す鼻音(例えば、末代無智の「まつだい↓まつだい」と鼻が詰まったような音を出します。文字では表現できませんが;)という読み方もあり、拝読しながら、聞きにくいだろうなど申し訳なくなることがあります。

続いて、拝読をする時には、少し節せつを付けていきますから、その説明をしようかと思いましたが、紙面が足りませんので次回にさせていただきます。

お手紙のお心を味わっていきこうと企画しましたが、もうしばらく脱線をすると思います。ゆっくりとお付き合いくださいませ。

## 編集後記

今月の「じゅごう」はお届けが遅くなりすみません。法語には「ほとけの子のちかい」を載せております。これも会に初めて来てくれたお友達が、家に帰ってからこの「ちかい」を思い出してくれたそうです。

お子さんがごく軽い嘘をついたようで…

子「わたし、知らない」

親「ほとけの子は、いつも本当のことをいいます」

子「うう…ごめんしやない」

でも、親の私も気付かされて…

親「ころーいつも言ってるでしょーキーツ！」

子「ほとけの子は、やさしい心を忘れません」

親「…(やられた)」

「ごども会」と言っはいますが、阿弥陀さまから見れば、私も「ほとけのごども」でありました。お育てを頂いた、大切な感想を賜りました。(釋法道)

## 行事案内

日時・八月十五日(木) 十時・十四時

行事・初盆会(十時) 法話 当山住職

孟蘭盆会(十四時) 法話 花岡静人先生

場所・長原 浄覚寺

(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)



九月二十三日(祝) 十四時より

秋季彼岸会 法話 山上正尊先生